向島界隈の今昔



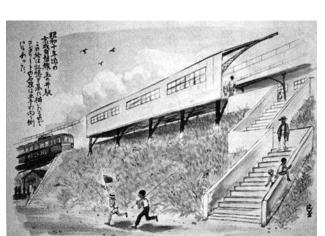
探訪することとしました。
で庶民の憩いの場も多数あったといいます。今回は向島界隈に焦点を当てろで庶民の憩いの場も多数あったといいます。今回は向島界隈に焦点を当て江戸時代から向島と呼ばれ、大名の下屋敷や別荘などが点在していたとこ時代背景は、昭和の初期で、場所は吾妻橋から東向島ぐらいの範ちゅうです。ゆうの漫画で「寺島町奇譚」、奇しくも共に奇譚という名前がついています。ここに二冊の本がある。一冊は永井荷風の「濹東綺譚」、もう一冊は滝田

一つの奇譚

島駅から見える二寺小(第二寺島小学校)が母校だそうです。島町奇譚」は、本人が幼き頃住んでいた玉の井を描いています。今でも東向中心地玉の井まで歩いて頻繁に行っていたそうです。また、滝田ゆうの「寺で「永井荷風の作品「濹東綺譚」を書いた時は、住んでいた麻布から物語の二つの奇譚に共通しているのは、現在の東向島です。時代は昭和十年前後

ところで、 年廃止で今はありません) があったことはご存じでしょう 改名には賛否両論があったよう といっていた記憶があります。 理事務所に勤務していましたの 白髭に向かって一・ か。京成線向島駅(昭和二十二 れ東向島駅となったようです。 ですが、昭和六十二年に改名さ 向島駅は、そのころは玉の井駅 トルの線路があり、 っていました。今の東武線・東 私は、 当時の東向島を多少しは知 昭和五十年代に東部管 もう一つの玉の井駅 その中の 四キロメー から





▲ 白鬚線玉の井駅 (東京今昔探偵より)

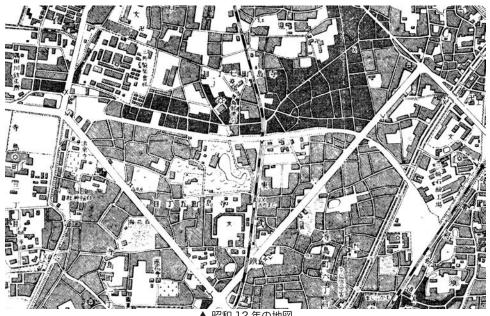


▲ 濹東綺譚で使われている玉の井

から先に行く計画が実現 たようです。 画された線で、 都心に進出を試みるため計 昭和三年から十一年まで営 業をしていまして、 輪 (現在の都電荒川線)三 橋駅に延伸を狙ってい L 王子電気軌 かし、 京成が 押上



▲ .. 白鬚線玉の井駅の跡



▲ 昭和 12 年の地図 白髭線の跡が載っており東武線との交差点は少し高いのが読み取れる

たため、 中にも描かれています。 かりの頃が、 しまいました。 白髭線は廃線となって この二つの綺譚の 廃線になったば

場の跡が雑草に覆われて、 た土手際に達している。 から見ると城趾のような趣をな 路の跡で まで京成電車の往復していた線 している』 上には取り払われた玉の井停車 立てた広い草原が鉄橋の 線路に沿うて売貸地 崩れかかっ た石段の 去年頃 かかかっ の札 此方

▲ 昭和 11 年の玉の井 (玉の井という街があったより)

荷風は書いています。

+ 6H=E

おはぐろどぶ

どぶも今は埋め立てられ下水道となり、 越肉店の角を曲がって最初の路地が、 ですが、 歩いてみると、 の声』と表現されています。昭和初期の玉の井が描かれている地図を頼りに っきりと「おはぐろどぶ」と書かれています。 「おはぐろどぶ」と云えば浅草の新吉原にあった ここにも「おはぐろどぶ」と呼ばれる処があり、 地図のいろは通り沿いにあった大越肉店は現在も健在で、 昔のおはぐろどぶと思われます。 人が通れる道となっていました。 濹東綺譚では『絶えざる溝蚊 「おはぐろどぶ」が有名 寺島町奇譚にはは そ 0) 大



「荷風自筆の画

ラビラント

の道筋がそのまま残っているのを感じ取ることができます。は分断されることになったそうです。しかし、一歩中に入ると江戸時代から正通り(水戸街道)が昭和六、七年頃築かれました。これにより、向島の町正通り(水戸街道)が昭和六、七年頃築かれました。これにより、向島の町の道界隈の道を歩くと細い道が曲がりくねっており、荷風は『迷宮(ラビ

墨堤通り

ました。その後、桜を植える人々がおり増えていきましたが、明治十六年に百株余りの桜を植え、庶民の遊行の地とし



▼新旧白鬚神社(江戸名所図会)

ると思います。今でも季節になると桜を見物する人で賑わっています。成島柳北らが千株の桜を植えました。その名残が隅田公園で見ることができ

明治通りを超し、地蔵坂通りと交差する手前には白髭神社があります。

桜はないものの、道は昔を忍二百メートルほど残っており、の神社に沿って旧墨堤道が



撮影所

ぶことができます。

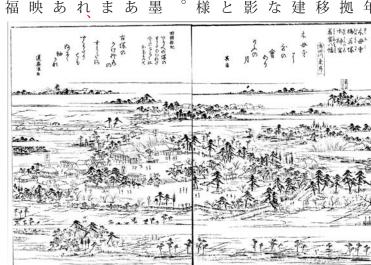
に運転開始をした隅田ポンプ所、そして隅田川神社、最後に木母寺です。中に点在するいくつかの建物があります。堤小学校、その隣に昭和三十八年ー丘底の防災拠点と隅田川との間に広大な公園(東白髭公園)があり、その

木母寺には梅若塚があり、結構有名ですが、木造の建物はガラスのケース

、▼明治時代と現在の梅若堂



ります。 なっています。隅田川神社も同様 はなく、こぢんまりとした寺院と 築が不可のため味気ないものとな から工事が始まった白髭の防災拠 天幕張りのステージを作ったとあ した。それを吉沢商店が買い入れ る杉山茂丸が別荘を持っていま 田区史によると夢野久作の父であ に味気ない風体になっています。 ったようです。 転を余儀なくされ、 点を造るため、 に囲まれています。 会社のひとつであり、 現在の堤小学校の場所には、 吉沢商店は当時の四大映 現在は江戸の面影 昭和五十一 また、 昭和五十二 東京の福 年に移 木造建 墨



▲ 木母寺(江戸名所図会より)



宝

を

起

ち

上

式会社 使える時代ではないため、 横田商会と合併 した。 年から関東大震災の後二年ほどまで ガラスを多用して作られただめ、 用する様に設計したそうです。 日活の向島撮影所として使われていま エム・パテー商会、そして京都の 当時は電力なんてモノが自由に (日活) ができました。 大日本活動写真株 自然光を利 全面に 大正二 グラ

゙ラスステージ

は七千九百平方メートル、スタジオの床面積は三百平方メートルほどで、 スステージと呼ばれていました。 画が活動写真と呼ばれていた頃、女形の立花貞三 シャがヒット作であったといわれています。 敷地 一郎を中心に作成したカチュ 映

髭橋 大正 元の人々が É 株式会社 三年に 髭 橋 は 白 地

れな 造の が させていた木 収 して通行 採 橋 ため でし 算 が を



▲ 橋場の渡し



▲ 白髭僑

は渡し船によって対岸との交通を確保していました れ無料となりました。 現在の橋は昭和六年に作られました。 (隅田の渡し=橋場の 橋ができるまで 渡

京府

に

移管 年に

正

兀

この辺りに小松島遊園という遊園地がありました。とは云っても今の

遊

が、古くは八 ジするとナン 園地をイメー とになります だーというこ

の丘が水から に七つ、八つ 島の郷と呼ば 汐入の中

顔を出してい 隅

の松島がいいと云うことで、またまた改造し 改造し、別荘としていました。その後、奥州 ただけの処で、 という人が買入れ、関八州に見立てた庭園に ここを明治十一年に小野義真

小さな松島と云うことで小松島と命

が建っているところです。幸田露伴の水の東京に「左に小野某の小松島園あ た。今は、 名して、明治十七年に一般に公開しましたが、明治二十年に公開をやめまし 白髭橋の左袂にリバーサイド隅田セントラルタワーの大きなビル

書かれています。 墨田堤を望む花時の眺めおもしろく…」 下は少許(しょうきょ)の草生地を隔てゝ 右に小松宮御別邸あり。 小松島園より と

0



どがありますので、 歌三神」「文七元結」「百年目」「花見酒_ す。向島が舞台になる落語は、このほかに「和 す。その近くで団子と桜餅が売られていま 落語に「野ざらし」という噺があります その舞台となっているのが三囲神社で お時間がありましたら な



▲ 小松島遊園 (作者不祥)

言問団子はこの近所に住んでいた明治の文豪、

幸田露伴

(i)

毎日、 れが明和八年頃です。 た。そこで、薄い小麦粉の皮に餡を包み、桜の葉を塩漬けにしたもので巻い 好物でした。 から取っており、 て桜餅を作ったところ、 かと考え、まず作ったのが桜の葉の醤油漬けですが、あまり売れませんでし 桜餅は向島長命寺の寺男山本新六が、享保二年(一七一七) が思ふ人はありやなしやと 向島堤の桜の落葉の掃除に手を焼いていまして、

花の香と若葉にこめて 葉隠れに小さし夏の桜 葉桜や昔の人と立吐 かぐはしき桜の餅家づとにせ 餅 ょ

して一夏を過ごした折、

明治の俳聖正岡子規が、ここの二階を「月光楼」と称

大変売れまして、

一日七百個以上出たようです。

何かに使えないも のこと、

毎 Ė

などの句を残しています。

業平橋ポンプ所

▲ 明治の言問団子の店

と共に昭和四年に運転を開始しました。 の森川下総守の屋敷がありました。 戸の頃は中ノ郷瓦町と呼ばれ、 送るため、三の橋ポンプ所や木場ポンプ所 業平橋ポンプ所は、 砂町処分場へ汚水を 中奥御小姓 明治に 江



<u>▲</u> 業平ポンプ所

その求めに応じて手製の団子や渋 言問の名前は在原業平の

いましたので、

散策する文人墨客が多く、

茶を呈したのが言問団子の始まりだそうです。

にしおはばいざ

言问はん都鳥

聞いてみてください。団子は、江戸郊外の向島が、四季折々の眺めに富んで

西

洋

が

日の

本に

ろ

なると、

ま

江

戸り候

と

あ

座

わり

あ

ぢ

は

ひ何

に

7

0)

他悪

敷候

物

見

処

てが

酒

給

初のビールを味わった人は誰だっなり中ノ郷八軒町と町名は変わり、いました。そばには北十問川があります。江戸の頃は源森川といい、今の旅橋には名前がなかったようです。本橋には名前がなかったようです。ここから程遠くない場所に、ビール会社があります。ここでビーール会社があります。ここでビールの歴史を見てみると、日本で最初のビールを味わった人は誰だっ

(一七二四) に書かれた「和蘭問江 戸 時 代 の 享 保 九 年

たのでしょうか?

本人のん

想日

てビー

ル 初

載

7

 $\langle \cdot \rangle$



▲ 枕橋

目前には、こうごうでは、「つこう」をは徐々に飲まれるようになったそうです。来るようになり、富裕な人々の間でビール

十九年に札幌麦酒となりました。明治三年(一八七〇)横浜に初めての醸明治三年(一八七〇)横浜に初めての醸明治三年(一八七〇)横浜に初めての醸明治三年(一八七〇)横浜に初めての醸

代的ビール工場が大阪麦酒会社の吹田村醸明治二十四年、日本人による初めての近

期は、 三十九年に大日本麦酒という会社を、 造所 サッポロビールに名前を変更しました。 資で作り、七十パーセント以上のシェアを持っていました。 三十三年に札幌麦酒が、 (一九四九) (アサヒビール吹田工場の前身) すでに今あるビールメーカーのほとんどができていましたが、 に日本麦酒と朝日麦酒に分割され 東京の吾妻橋に工場を作りました。 で、 大阪麦酒、 年中飲めるようになり 日本麦酒は昭和三十 日本麦酒、 明治のこの 昭和二十 札幌麦酒 四 0) 明 0) 明 時

ヒビールだそうです。アルミ缶入りは昭和四十六年、アサヒビールの吾妻(缶入りビールやアルミ缶入りビールを日本で初めて採用したのは、アサ

橋工場でつくられた

して建 オブジェ 橋工場を本社ビルと そうです。平成元年 (一九八九) に吾妻 アサ フランス ホ て直し、 ヒ が できま ル (n) 0 1 達物 フィ パ あ 0)



▲ 昭和 30 年頃のアサヒビール

戸時代の元の住人松平越前守もさぞや驚いていることでしょう。 江リップ・スタルク氏によるもので、オブジェは泡を表しているそうです。江

(文責 小松)

参考文献

「隅田川を歩く」 JTBキャンブック 林順信「江戸から東京へ」(六) 中央公論文庫 矢田挿雲

「東京今昔探偵」 中央公論新社 読売新聞社会部

「寺島町奇譚」 ちくま文庫 滝田ゆう

遷東綺譚」 新潮文庫 永井荷風

「東京の戦前昔恋しい散歩地図」 草思社

「東京路上細見」(五) 平凡社 小檜山俊

「永井荷風の愛した東京下町」 JTBキャンブック

「古写真で見る江戸から東京へ」 世界文化社

「玉の井という街があった」 立風書房 前田豊

「墨田の今昔写真集」 墨田区文化観光協会

「江戸名所図会」(六) ちくま学芸文庫

東京都市地図」(一) 柏書房

「百年前の東京絵図」

小学館文庫

「江戸明治東京重ね地図」 エーピーピーカンパニー

086